

Ⅲ 学校評価自己評価

1. 学園保幼小中一貫教育報告一覧

学園名	「目指す子ども像」、教育目標
1 峰山学園	<p>【教育目標】 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」</p> <p>【目指す子ども像】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」 「思いやりのある子ども（徳）」 「進んで心と体を鍛える子ども（体）」
2 大宮学園	<p>(1) 教育目標 自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成</p> <p>(2) 目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） ○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）
3 網野学園	<p>【目指す子ども像】</p> <p>あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】 意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】 規範意識をもち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】 粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども</p> <p>【教育目標】 将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進</p>
4 丹後学園	<p>「目指す子ども像」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】 ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】 ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】 <p>「教育目標」 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成</p>
5 弥栄学園	<p>教育目標 「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」</p> <p>目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> (知) 知識と技を磨き、活用する子 *自ら課題に取り組む（自主的な姿勢） (徳) 自他の良さを知り、共に伸びる子 *仲間と知恵を絞る（対話的な学び） (体) 心身を鍛え、何事もやりぬく子 *解決策を探り、自信をつける（深い学び）
6 久美浜学園	<p>[教育目標] 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」</p> <p>[目指す子ども像]</p> <ul style="list-style-type: none"> (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

2. 京丹後市立こども園、学校評価自己評価報告一覧

学校名	学校・園教育目標
1 峰山こども園	<p>“笑顔でつなごう。心とこころ!!”</p> <p>～はなそう・つたえよう・みんなのおもい～</p> <p>(1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。</p> <p>(2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。</p> <p>(3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p>
2 大宮こども園	<p>人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全に活動する子ども ・身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子ども ・人の話をしっかりと聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子ども ・素直で思いやりがあり積極的に関わり合う子ども
3 網野こども園	<p>『園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気で主体的に活動する子どもの育成 ・みんななかよく思いやりのある子どもの育成 ・伸び伸び生き生きやりぬく子どもの育成 <p><テーマ></p> <p>『どきどき わくわく きらっ！ ひとりひとりがかがやいて』</p>
4 丹後こども園	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に環境に関わり自分で考え判断し行動する園児を育む。 ・遊びや生活の中で様々な体験をしながら、ものの見方や思いやりの気持ちを育む。 ・地域とともににある園づくりを進める。 ・保育教諭同士が互いに学び合える組織づくりを進める。
5 弥栄こども園	<p>「みんな だいすき つながるえがお」</p> <p>～やってみたい！もっとやりたい！夢中になって遊ぶこどもをめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ・生活中必要な習慣・態度を身につけ、健康な心と体を育てる。 ・身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
6 かぶと山こども園	<p>こども園教育目標</p> <p>「元気な体と豊かな心、生きる力を持った たくましい子ども」</p> <p>《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》</p> <p>～いっぱい遊ぼう！一緒に遊ぼう！友達っていいな～</p> <p>1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。</p> <p>2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。</p> <p>3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現する力を育てる。</p>

学校名	学校・園教育目標
7 峰山小学校	社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら主体的に生きることができる力を育てる。 1 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2 よりよい生き方・在り方を深く考え、自律的に行動する力を育てる。 3 学んだことを生かして、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度を育てる。
8 いさなご小学校	教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやのいる子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども
9 しんざん小学校	1 一人ひとりが自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
10 長岡小学校	「峰山学園」経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して学校教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に迫る。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやのいる子ども ・進んで心と体を鍛える子ども
11 大宮第一小学校	「学校教育目標」（長期目標） ◆自他を尊重し、自ら学ぶ こどもの育成 「目指す学校像」 ◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇やりがいを持って自分の力を發揮する学校【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇他地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】
12 大宮南小学校	大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 大宮南小学校 目指す学校像 (1) 学級づくりを基盤にして、質の高い授業づくりを追及する学校 (2) 全ての児童が大切に育てられている人権的風土のある学校 (3) 家庭・地域と共に信頼される学校
13 網野北小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
14 網野南小学校	網野学園保幼小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成」 【目指す子ども像】 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子
15 島津小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
16 橋小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども
17 丹後小学校	教育目標（丹後学園共通） 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 <目指す学校像> 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校
18 宇川小学校	夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 ○目指す子ども像 (1)言葉で伝え合い、主体的に学ぶ子(知) (2)自分を大切にし、人を思いやれる子(徳) (3)粘り強く身体を鍛える子(体)
19 吉野小学校	1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図るために、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級づくりを推進する。 2 確かな学びの力と豊かな人間性を育み、一人一人が大切にされる「心の教育」の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の保幼小中一貫教育を校種間における様々な取組等を充実させながら推進する。 5 ICTを効果的に活用し、授業改善を図る。

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
20 弥栄小学校	「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子
21 久美浜小学校	教育目標【久美浜学園全体】 「ふるさとを愛し 意欲的に学び やさしい心をもち 根気強く努力する子どもの育成」 目指す子ども像【久美浜学園全体】 (1) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども（知） (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心を持つ子ども（徳） (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども（体） 重点目標【久美浜学園全体】 「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～ 子どもの実態や系統性を踏まえた指導～ 指導の重点『学力の向上』 ①基礎・基本の徹底 ②主体的に学ぶ力の伸長 ③家庭学習時間の確保 校訓「一生懸命」を意識した教育活動の推進
22 高龍小学校	意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 — 1 基礎・基本の徹底 2 主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり） 3 家庭学習時間の確保
23 かぶと山小学校	1 久美浜学園教育目標 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」 2 めざす児童像 (1) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子
24 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】（社会的自立につなぐ教育） ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためのICTを活用した授業改善の推進と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止
25 大宮中学校	1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼され、開かれた学校づくり 5 教職員の資質能力の向上 6 大宮学園保幼小中一貫教育の推進
26 綱野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
27 丹後中学校	開校8年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性を信じそれに果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
28 弥栄中学校	1 全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。 2 主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。 3 基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。 4 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。 5 未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。
29 久美浜中学校	<久美浜学園> 指導の重点：学力向上 (1) 基礎・基本の徹底 (2) 主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり） (3) 家庭学習時間の確保 ◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。 1 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 3 不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善 4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立 5 新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」

令和3年度 峰山学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【教育目標】

「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」

【目指す子ども像】

「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」

「思いやりのある子ども（徳）」

「進んで心と体を鍛える子ども（体）」

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動）」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。

(1) 確かな学力の育成

言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究）

※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。

ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める。

授業の中で目指す児童生徒の姿（3目標）

- ①自己決定をしている
- ②自己存在感を感じている
- ③共感的な人間関係をはぐくんでいる

そのための指導方法（3視点）

- ①主体的に活動する場面が設定された授業
- ②本時の目標が明確で「わかる」授業
- ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業

イ 目標と指導と評価の一体化を進める。

（ア）目標から単元総括テストを作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計

（イ）単元総括テストの蓄積と検証

(2) コミュニケーション能力の育成

確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動）

ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導）

イ 自己肯定感を高める取組（特別活動）

（ア）学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組

（イ）集団の中で豊かに人とかかわることができる取組

(3) 評価を見通した取組の充実

ア 学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実

イ 教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	<p>(1) 学園内の全ての学校が、年度当初から目指す子ども像・教育目標を共通化</p> <p>(2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け</p> <p>(3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け</p>	<p>(1) 児童生徒の実態や課題などや目指す子ども像、目標方針の共有について</p> <p>○年度当初の研修会は各校での開催となったが、峰山学園の児童・生徒の実態から明らかにした経営方針を全教職員で確認し、運営ができた。</p> <p>○児童・生徒の状況については、各会・部会で共通理解を図り、取組に生かしている。担任会でも、児童の状況について交流を行ったり、指導方法等を学び合ったりしている。</p> <p>(2) 学校経営及び進行管理</p> <p>○月1回の定例経営会議を校園長会として開催し、学園内の教育課題の把握・整理を行いながら、教育目標・目指す子ども像の実現を目指して保幼小中一貫教育を意識して経営を行うことができた。</p> <p>○経営会議で、運営部会、教育課程部会、生徒指導部会、教育支援部会、学習指導部会の取組等を把握することができた。</p> <p>○担任会の実践を進めるために、担当校長・教頭、教務主</p>

		<p>任が担任会に入り、中学校数学科の教員が5・6学年担任会に加わっている。また小中の教務主任が担任会に加わることで、学習指導部会と連携した組織となり、より充実した活動ができた。</p> <p>○担任会が研究組織として機能していくことを年度当初に学習指導部会で確認し活動を進めたことにより、一貫教育の取組の見直しを行うことができた。単元総括テスト作りを通して、単元の指導構想、教材観、評価観、指導力観に繋がる論議を通して教師の指導力向上に繋がる一助となった。また5・6年担任会では、中学校数学科担当の先生からの意見や指導の実態を聞くことができ、小から中に繋がる指導の一貫性をより意識することができた。</p> <p>○1年担任会後半には、こども園から園長、担任が参加し保幼小の接続がスムーズにいくように連携を深めた。接続を意識したことでも園の実践から小学校の指導を振り返る機会となった。</p>
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり (2) <u>汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導</u> (3) 単元総括テストの作成と交流 (4) 京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 (5) 学力充実期間等の設定 (6) 中1ふりスタ (中学校1年生集中振り返り学習) (7) 全ての学年でのふりスタ (8) 家庭学習がんばり週間の実施 (9) 中学校体験授業 (10) 「5年生・6年生の心構え」の検討 (11) 二分の一成人式（小学校4年生）、立志式（中学校2年生） (12) こども園、小学校の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導 (13) アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証と改善 (14) 不登校にかかる事例研「不登校の子どもと家庭への小中連続した支援の在り方について」の実施 	<p>就学前から中学卒業までを見通した一貫した指導の充実と教育課程編成を行う。</p> <p>本年度も、0期、I期～III期をより意識した指導を行うことを年度当初で確認した。各校園では「(0) I期～III期における『目指す姿』」(教育課程)を職員室に掲示する等、担任会で峰山学園の児童生徒に対する力の検討を行ってきた。このことが、一貫性・系統性のある教育課程による指導につながっていく。</p> <p>(1) 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像の共有</p> <p>○経営会議で決定したことを各校へ持ち帰り、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。</p> <p>(2) 就学前から中学卒業までを見通して一貫した指導について研究を行った。</p> <p>○年間12回校園長会を実施し、連携を深め、10年間を見通した指導について取組を進めることができた。また、教育支援部会へのこども園の参加、1年担任会（こども園の参加）・教育課程会議の取組で、一貫した園児・児童の支援を行うことができるようにしてきた。</p> <p>○●こども園等から小学校へ、小学校から中学校への子どもに関わる情報については、個人情報であることを踏まえた対応と内容については、毎年確認をしてより良いものにしていく必要がある。アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムも1年担任会で検討し改善・実践する。</p> <p>○本年度、教育目標、目指す子ども像の実現を目指して、0期、I期～III期までの指導・支援の在り方について明確にしようと確認をして教職員が、協働して指導・支援を行ってきた。次年度以降もさらに0期、I期～III期までの指導・支援の在り方について明確にしていく。</p> <p>○指導の重点である確かな学力の育成では、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを各小・中学校で進めることができた。</p> <p>○1中学校4小学校だから実施する必要性がある「中学校体験授業」等に取り組むことができた。また、「乗り入れ授業（小中連携加配）」（体育）にも取り組むことができた。</p> <p>●コロナ禍では「小学校合同校外学習」の実施は難しいが、ICT活用等の工夫をして可能な限り小小連携について追究する。</p> <p>○児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。</p> <p>○小中の家庭学習の在り方についてI期の「与えられた課題を確實にやり切る力」からIII期の「授業と関連した自主学習の力」を付ける家庭学習の指導の改善を図った。中学校の実践を参考に小5、小6が使用する「家庭学習週間シート」で目標に向かって自分で家庭学習計画を立てる仕組みを整え実践を進めることができた。</p>

		<p>○各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、豊かな人間関係の構築を目指して学級経営、授業の場で生徒指導の3機能を生かす視点を意識した指導を行い、概ね落ち着いた状況で生活できている。</p> <p>○生徒指導部会のアンケートを実施することで児童・生徒の実態をつかみ、SNSに係る指導を小・中学校で進めることができた。</p> <p>●情報機器やSNSにかかる指導については、PTAとの連携が今後も必要である。</p> <p>○「二分の一成人式」「立志式」に取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てことができてきている。学園としてねらいや趣旨を共通化して、育成すべき力の実現を目指す。</p> <p>○夏季研修会の全体会で教育支援部担当者から、中学校の不登校傾向児童、配慮を要する児童生徒への組織的な対応の具体を共通確認した。情報の接続の重要性、認識の共通理解、対応の一貫性が未然防止に繋がっていることを認識でき、小中の丁寧な連携が成果に繋がっていることを確認できた。</p> <p>○部会にはSC、SSWの参加依頼も行い、対応を検討した。</p>
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	<p>(1) 目指す子ども像の実現・目指す教師像の意識化に向けた教職員の協働及び教職員の交流</p> <p>ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施</p> <p>イ 授業を通した研修会</p> <p>ウ 担任会を通した研修</p> <p>(2) 「集団の中で豊かに人とかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもとの交流を図る行事等の計画・実施</p> <p>ア 峰山中学校合唱祭</p> <p>イ 部活動体験</p> <p>ウ 合同授業・学びの交流等</p> <p>エ 体育祭等</p> <p>オ 生徒指導の3機能を生かした「わかる・できる」授業実践</p> <p>カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組</p>	<p>○『『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点』「生徒指導の3機能を生かした授業」について小中学校ともに各校で授業研究に取り組み、授業改善を前進させることができた。</p> <p>○一部オンライン開催・誌上開催となつたが、全教職員の研修会での実践研究及び各部会での実践交流を通して、教職員の交流及び共有化を図ることができた。</p> <p>○峰山中学校合唱祭(中止)・クリーンキャンペーン・部活動体験・体育祭・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校への不安を解消したり、自己肯定感を高めたりすることができ、引き続き、取組内容等を検討し実施していく。</p> <p>●感染予防が必要な中、小学校合同校外学習・合同授業等を通して小小の交流を深め、豊かな学習を創り上げるために何ができるか探っていく。</p> <p>●交流会が実施できない中、保幼小中の教職員及び峰山高等学校との授業研究等を通して今後も連携を深めていく。</p>
家庭、地域との連携、情報発信	<p>(1) 家庭・地域への情報発信</p> <p>(2) 学校支援ボランティアの活用</p> <p>(3) 家庭との連携</p>	<p>○学園の課題(基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等)と連携した峰山学園PTA統一目標を策定したり、具体的にPTA挨拶運動(峰山学園PTAみんなでおはよう運動及び交通安全指導)を実施したりすることができた。</p> <p>○学校運営協議会を通じて学園の取組等を関連機関や地域に発信してもらうことで、学園の取組への理解や安全面での協力に広がりが見られるようになった。</p> <p>○学園だより・ホームページ・リーフレット等により学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。</p> <p>○学園内の教育活動の充実を図るために各校の希望を聞き、地域性を生かした教育活動の展開を目指して積極的に学校支援ボランティア等の活用を図ることができた。コロナ禍で未実施となった取組もあるが人材のパイプが広がった。市民が、学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができた。</p> <p>○SNSについて、各小中学校で実態に合わせてPTAと連携して取り組むことができた。今年度はSNS講演会も小学生、中学生、保護者の3部制で実施できた。今後もSNSに関わる指導をPTAと連携して進めていく。</p>

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>《成果》</p> <p>1 児童生徒、教職員アンケート結果より ・峰山学園の保幼小中一貫教育の成果は顕著に現れ、峰山学園の児童生徒の課題解消や軽減等は着実に進んでいる。</p> <p>2 峰山学園の教職員のアンケートから、確実に保幼小中一貫教育を目指している一貫した指導が浸透してきていることが伺える。今年度は、秋に授業研究会を実施でき、各校や学年会等で授業について小・中学校の教員が学園の授業改善の目標を意識して研究を進めている状況が確認できた。</p> <p>3 学園経営及び進行管理について ・経営会議が運営会議、教育課程会議及び生徒指導部、学習指導部などを統括する必要があり、組織改編を行った。 ・担任会の実践を進めるためにより機能的な組織体制にして、担任会がより授業づくりの実践推進を担うよう学習指導部と連携できるようにした。 ・担任会の活動内容（総括テスト、学習の振り返り）を明らかにし、授業改善や学力向上に繋がる実践を取り組むことが出来た。 ・学園が標榜している授業改善の3つの柱（授業を見る視点、生徒指導の3機能、目標と指導と評価の一体化）に焦点化した実践を進めることができた。</p> <p>4 10年間を見通した一貫した取組について ・「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担任会に位置付け学習指導部と連携しながら（言葉の力の育成：思考する力・判断する力・表現する力）に焦点を当てた評価テストの作成等に取り組むことができた。 ・生徒指導の3機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた。</p> <p>5 オンラインではあったが、夏季研修会の全体会の中で、峰山学園が研究指定を受けてから10年間、小中一貫教育に係る取組を展開し、大きな課題であった学力の向上、不登校の改善についての成果を全教職員で確認することができた。</p> <p>・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、「(0) I期～III期に目指す姿」を強く意識をし、各期に身に付けさせる力を明らかに指導することができた。</p> <p>・児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。</p> <p>・各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、授業にも生徒指導の3機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一成人式」「立志式」にも取り組み、成長を実感し自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。</p> <p>・「小中学校で共通確認する指導の視点」に基づき、各校で実態に応じた授業づくりに関わる</p>	<p>《改善方策》</p> <p>○令和4年度は、現体制（1中学校4小学校2こども園の組織図及び組織体制）で運営していく。</p> <p>○担任会の取組の継続・発展 担任会…今年度の体制を維持し次の内容に取り組む。 ①学年の学習内容の復習のための課題づくり ②目標と指導と評価の一体化を具体化する総括テストづくりをすることによる指導力の向上を図る。 ③Ⅰ期～Ⅲ期の指導目標を踏まえた指導の充実を図る。</p> <p>○小4（I期とII期の節目）に「焦点化して研究推進してきたが、今後それぞれの節をより確かなものにするために研究・実践の幅を広げていく。6・3制のもとで定着している教育課程の意識や行事・取組等を検討し小中一貫した教育課程の無理のない移行を図る。</p> <p>○こども園から小学校への連続性、効果的な接続の在り方について今後より一層重点的に取り組み、学園の保幼小中一貫した教育の実践を目指して研究を推進していく。</p> <p>○小・中学校教員の研修会 授業づくりを中心とした協議を行い、小中学校で指導力の向上を図る。</p> <p>○令和4年度の目指す子ども像・教育目標・目指す教師像について、保幼小中一貫教育推進の手引きをもとに検討を行う。</p> <p>【令和4年度】</p> <p>1 目指す子ども像 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体）</p> <p>2 教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」</p> <p>3 目指す教師像 教育的愛情と、使命感・情熱に満ちている教師 人間的魅力にあふれている教師 高い「専門性」と「授業力」を持ち、確かな学力を持つことができる教師 児童生徒、保護者、同僚、地域の人から信頼される教師 「京丹後」への理解と愛情と、国際的な視点に立った教育を進めることができる教師</p> <p>4 学園経営方針</p> <p>(1) 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童・生徒】 ア 自分の将来を展望し、意欲を持って学ぶことができる取組を進める。 イ 自分の思いや考えが表現でき、共に学び、思いややることができる取組を進める。 ウ 精力強く挑戦し、自らの心や体を鍛えることができる取組を進める。</p> <p>(2) 「中学校卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】 ア 児童生徒の願い・希望・悩みに正面から向き合い、共感的理解と指導に努める。 イ 「わかる」「できる」授業・生活の創造に取り組み、専門性の向上を図る。 ウ 10年間を見通して、一貫性・系統性のある指導を行う。 エ 互いに学び合い、協働的な教育活動を展開する組織を構築する。 オ 保護者や地域の人達と連携して児童生徒の社会的自立を図る指導を進める。</p> <p>(3) 保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】 ア P T A・地域と連携した自己肯定感を高める取組を進める。 イ 保護者・地域へ双方向の情報発信を行う。</p>

<p>研究を進め、秋季研修会で小学校2校の授業研究会を行った。具体的な児童生徒の姿から、よりよい授業づくりの在り方について学び合うことができた。協議を通して目指したい指導生徒の姿や授業づくりで大切にしたい視点を明確化したり共有化させたりすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中一貫教育コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を行い、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 ・不登校の未然防止に向けて、学園内で気になる子どもの情報交流をすることで、幼児期・学童期の過去の様子や家庭の情報などを得ることができ思春期の時期の変化に即した支援や指導に繋がった。 ・現場ですぐに活用できる内容として、愛着障害の特徴や種類、それに応じた支援等、重要な事柄をSSWの講義で学ぶことができた。それぞれのステージで移行支援シートを丁寧に作成し、引き継いでいることも不登校の解消につながっている。 ・SC・SSWの専門的な見立てからも学び、状況改善に向けての取組を進めることができた。 ・相談部による校内サポートなど学校が組織として継続して支援をすることを推し進めてきた結果、不登校の未然防止につながった。 ・SNS講演会については、児童生徒向けと保護者向けを実施できた、主催、運営等の役割分担が整った。 ・コロナ禍ではあったが、ペアやグループでの学習形態を計画的に取り入れることで、子ども達のつながりを育み、学習意欲の向上や不登校の未然防止につなぐことができた。 	<p>ウ 市民が学校の教育活動を積極的に支援する取組を進める。</p> <p>○学園指導の重点</p> <p>指導の重点「確かな学力の育成(授業研究)」「コミュニケーション能力の育成(生徒指導・特別活動)」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。</p> <p>(O) I～III期における「目指す姿一覧」を意識した指導を今後も積極的に行う。</p> <p>(1) 確かな学力の育成</p> <p>生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。(授業研究)</p> <p>※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。</p> <p>ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める 授業の中で目指す児童生徒の姿 (3目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自己決定をしている ②自己存在を感じている ③共感的な人間関係をはぐくんでいる <p>そのための指導方法 (3視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①主体的に活動する場面が設定された授業 ②本時の目標が明確で「わかる」授業 ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業 <p>イ 目標と指導と評価の一体化を進める</p> <p>(ア) 目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計</p> <p>(イ) 単元総括テストの蓄積と検証</p> <p>ウ ICT・ロイロノートの活用をすることにより、生徒指導の3機能(3目標・3観点)を生かすとともに「対話的・主体的で深い学び」の実現を目指した授業づくりを行う。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成</p> <p>確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。(生徒指導・特別活動)</p> <p>ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動(積極的な生徒指導)</p> <p>イ 自己肯定感を高める取組(特別活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア) 学校や地域の一員として主体的に参加する取組 (イ) 集団の中で豊かに人と関わることができる取組 (ウ) 一人一人の居場所を確保し不登校の解消につなぐ取組 <p>(3) 評価を見通した取組の充実</p> <p>ア 学園評価・学校評価結果に基づく学園経営の充実</p> <p>イ 教育評価・指導評価結果に基づく教育実践の改善</p> <p>○ 保幼小中一貫教育の具体的な内容</p> <p>1 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標方針の共有に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け <p>2 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 峰山学園の目指す子ども像を見通した指導と教育課程の作成 ア 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり イ 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導
--	---

<p>を積み上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人1台タブレットの導入に伴い、ロイロノートの活用が幅広く図られ「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善が行われた。今後は9年間の指導の系統性を整え、さらなる効果的な活用を推進する。 ・「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」では、「言葉の力の育成」に焦点を当てた実践を進める。 ・不登校の解消に向けて、今年度の取組を継続するとともに、関係機関との連携を更に深め、個に応じた対応から社会的自立につなぐ指導を展開する。 ・生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、コミュニケーション能力を育成し、豊かな人間関係の構築を目指す。同時に、指導者として各学年・発達段階に応じてそのためにどのような手立てが必要か検討していく。 ・「5・6年生の心構え」について年度初めに共通確認し、学園で足並みをそろえた指導を行うことができた。 ・特別支援を要する生徒が繰り返し問題行動を起こすなどの特徴が見られる。指導や支援の方法をより一層工夫・連携していく必要がある。 ・学園評価について、方針に基づいて早い段階から、評価の計画・見通しを持ち、学園学校運営協議会での評価により指導の改善を図る。 ・教育評価（総括テスト等）から、教育指導を実践していく。ゴールや出口を明らかにすることでより質の高い取組を行う。 ・保護者、地域の方々の評価については変更を加える。 <p>【保幼小中一貫教育の具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0期・I期～III期の実践を明確にし、小中一貫教育の姿を確認する。 <p>(3) 令和4年度に向けての年間計画・行事の見直し コロナ禍で制限もあり配慮が必要だが、保幼小中一貫教育の取組を継承・発展する視点と、実態に応じて見直す視点をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小6児童の不安感や中1生徒の困り感の再検証峰中（中1）ギャップの捉え直し ・単元総括テストの作成と交流と検証 ・京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 ・学力充実期間等 ・乗り入れ授業 ・小学校高学年での一部教科担任制（音楽科） ・中1生集中振り返り学習 ・全ての学年でのふりスタ ・中学校体験授業（年2回） ・二分の一成人式（小4）、立志式（中2） <p>ウ 0期I期～III期の目指す姿を達成できる指導について協議、実践していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領で児童生徒を主語にして授業改善の視点が示されていることを踏まえ、現在の指導方法を中心とした「小中学校で共通確認する指導の視点」について見直しを行う。 ・「5・6年生の心構え」については、児童生徒の実態を踏まえ、検討を継続していく。 <p>エ 園小接続を中心とした教育課程の編成と一貫した指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証 <p>3 子ども、教職員の交流と協働</p> <p>(1) 「目指す子ども像」の実現・「目指す教師像」の意識化→教職員の協働及び教職員の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業を通した研修会 ウ 担任会を通した研修 <p>(2) 「集団の中で豊かに人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 峰山中学校合唱祭 イ 部活動体験 ウ 合同授業・学びの交流等 エ 峰山中学校体育祭 オ 生徒指導の3機能を生かした授業実践 カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組 キ クリーンキャンペーン ク SNS講演会（峰山学園主催、運営：運営会議・峰山学園生徒指導部） <p>4 家庭、地域への積極的な情報発信</p> <p>(1) 峰山学園学校運営協議会による評価の実施と学園の目標、教育活動の保護者・地域住民への積極的な情報発信</p> <p>(2) 中学校区の家庭教育の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）を踏まえた「峰山学園」PTA統一目標の設定</p> <p>(3) 「峰山学園」PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施</p> <p>(4) 学園の教育活動に支援体制（学校支援ボランティア等）の機能化と充実</p> <p>(5) SNS講演会（保護者向け）については、小中一貫校PTAの取組として位置付け、各校PTAの計画等にも組み入れる。地域にも発信し地域と連携した取組に広げていく。</p>
---	---

令和3年度 大宮学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

- | |
|---|
| <p>(1) 教育目標
自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成</p> <p>(2) 目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） <input type="radio"/> 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） <input type="radio"/> 心身を鍛え、活動的な子ども（体） |
|---|

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- | |
|--|
| <p>(1) 経営の重点・連携教育活動の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ①連携・体験活動の充実を経営の重点とし、『ＩＣＴを活用した精選（効果的・効率的視点での充実・改善）と教職員のニーズへの対応』をキーワードとする。 ②保幼小、小中へのより円滑な接続のための連携教育活動を新型コロナ感染症の状況を見定めながら実施していく。 <p>(2) 「育成すべき基盤となる力」としての人権教育・特別活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する。 ②「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成のための授業づくりと特別活動の充実を進める。 <p>(3) ＩＣＴの積極的活用も含めた連携教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①汽水域を中心とした効率的・効果的な連携教育活動の精選・充実を図る。 ②汽水域以外の連携教育活動を創造する。 <p>(4) 大宮学園授業研究・合同研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を目指した授業研究を行う。 ②全教科・教科外指導力の向上を目指した合同研究（教職員のニーズに応じた研修）を推進する。 <p>(5) 学園経営と各校経営の円滑な推進のための学園組織体制・組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学園経営的会議（経営・運営・教育課程）の効率的な運営を行う。 ②各部会の組織的・効率的な運営を行う。 ③学園予算策定・執行の組織的・効率的な運営を行う。 <p>(6) 外部連携の仕組みの強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学園広報の強化・充実に努める。 ②大宮学園小中一貫校ＰＴＡ、園所保護者会との効率的な連携を進める。 ③大宮学園学校運営協議会での熟議と具体的活動（見守りとセットのあいさつの取組）を推進する。 |
|--|

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・児童生徒の姿・教職員の見方等)
児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	<p>(1) 学園内の全ての園・学校が、教育目標、目指す子ども像を共通化する。</p> <p>(2) 学園内の全ての園・学校が、学園経営計画を各校の経営計画へ位置づける。</p> <p>(3) 学園内の全ての園・学校が、学園の子どもの実態・課題、学園重点方針等を各校の経営計画へ位置づける。</p> <p>(4) 学園保幼小中一貫教育推進部会による理論・実践研究成果を各校に波及させる。</p>	<p>(1) 学園教育目標及び目指す子ども像に向けて、学園内の2園所、3校での共通化に取り組んだ。</p> <p>(2) 学園経営計画を各園所、学校の経営計画に位置付け、経営の充実に取り組んだ。</p> <p>(3) 学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営を統括し、一貫した教育指導・活動の充実に努めた。</p> <p>(4) 最大の課題となる不登校について、共通認識と連携の在り方について協議を重ね、指導支援に生かした。特に、教育支援部会で事例研究を通して不登校への理解と支援の在り方について研修を積み重ねることができた。</p> <p>(5) 引き継ぎシートを活用した児童生徒の支援の引き継ぎを丁寧に行うとともに、SC や SSW の活用を進めた。</p>

就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	<p>(1) 大中校区保幼小中一貫校教育課程の編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ①汽水域指導プログラムの推進等 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での乗り入れ授業の計画・実施（加配の活用） ・5・6年生での一部教科担任制 ・中学校授業体験（年2回） ② I期・II期・III期の学習への円滑な接続 <ul style="list-style-type: none"> ・アプローチプログラム、小1スタートカリキュラム（5歳児担任・1年担任） ・夢・未来式の実施（小4年生・中3年生） ・小4・中1ふりスタ ・中学校定期テスト模擬体験 ・春季休業中の共通宿題（6年生） ③家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の統一手引き ・家庭学習がんばり旬間 <p>(2) 学力充実向上に関する取組の進行管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学力調査と分析 ②学力向上のための授業充実・授業力向上 <p>(3) 生徒指導・教育相談に係る情報の共有と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ①5・6年生の心得、共通の生活の決まり ②情報モラル教室 ③保幼小中連携シート <p>(4) モデルカリキュラムに係る推進</p>	<p>(1) 大中校区保幼小中一貫校教育課程の編成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①汽水域指導プログラムの推進等について <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携加配の乗り入れ授業（音楽）と英語専科教員による外国語の授業を実施し、児童の実態把握や指導に効果があつた。 ・人権教育加配が小学校での学習補助にあたることで、児童支援や児童の状況把握に効果があつた。 ・体験入学や授業体験の実施により、入学への楽しみや期待につなげることができた。 ② I期、II期、III期の学習への円滑な接続について <ul style="list-style-type: none"> ・保園と小学校との連携のもと、小1プログラムの解消に向けての取組を行うことができた。 ・小4と中3で、夢・未来式に取り組んだ。 ・6年生を対象に中学校定期テスト模擬体験（数学）を実施し、中学入学後のテストに係る不安解消に向けて取り組んだ。 ③家庭学習の充実について <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引き、家庭学習がんばり旬間により、家庭学習習慣の向上に取り組んだ。 <p>(2) 学力向上に関する取組の進行管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学力充実部に新しく学習指導主任や研究主任を加えて学力分析を行うとともに、視点を明らかにした大宮学園授業研究会を行い、授業づくりに取り組んだ。 ②教科指導の連携・接続を目指し、担任会、小中連携による指導研究に取り組んだ。 <p>(3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学園として小中各校、一貫校PTAで情報モラル学習を実施し、SNSの安全な利用について学ぶことができた。 ②事例研究、引き継ぎシート等の充実に取り組めた。 <p>(4) モデルカリキュラムに係る推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学園としてモデルカリキュラムをもとにした授業の実施を行った。（新型コロナの感染状況を注視しながら） ②今後もモデルカリキュラムに係る研究を推進していく必要がある。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	<p>(1) 連携・体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人権意見発表会（学校毎） ②合唱祭 ③体育祭 ④部活動体験 ⑤体験授業 ⑥花いっぱい運動（学校毎） <p>(2) 幼児・児童・生徒交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①児童会・生徒会交流活動 ②挨拶運動 ③生徒会アドバイス ④児童会・生徒会スローガン ⑤園児と中学生との合同避難訓練 <p>(3) 教職員の交流と協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ①担任会（小小担任会、1年担任と5歳児担任、6年担任と中1担任） ②授業研究に向けた取組の推進 ③合同研修・実践交流会の実施 	<p>(1) 連携、体験活動、幼児・児童・生徒交流について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コロナ感染防止による連携・体験活動の精選や変更を行わざるを得なかつた。（合唱祭・体育祭は中学校のみで実施） ②児童会・生徒会交流活動、挨拶運動（ハイタッチモーニング）、部活動体験等、状況を判断しながら実施できた。 ③オンラインでの交流も実施でき、今後活用がさらに求められる。 <p>(2) 教職員の交流と協働について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①合同授業研究会や子ども園保育所の公開を通じて、幼児から小中学校への接続やその意義、授業研究の一貫性等大きな学びがあつた。 ②3部会での現状分析、実践交流に取り組んだ。 ③保幼小中教員の交流は一定進んだが、勤務の関係で保育所・こども園の先生方との交流が難しい。

家庭、地域との連携、情報発信	<p>(1) 中学校区の家庭教育課題を踏まえた大宮学園 P T A 統一目標の策定</p> <p>(2) 大宮学園 P T A による「家庭のやくそく」の取組</p> <p>(3) 大宮学園 P T A 統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的な取組の計画・実施</p> <p>(4) 大宮学園運営協議会(大宮学園コミュニティ・スクール)への動きづくり</p> <p>(5) 「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発</p>	<p>(1) 大宮学園 P T A の目標策定とともに、配布済の「令和版家庭の心得」を啓蒙することができた。</p> <p>(2) 大宮学園 P T A 事業計画に基づき、「元気におはよう挨拶運動」や「情報モラル学習会」等、計画的に実施することができた。</p> <p>(3) 大宮学園運営協議会との協働を進め、「見守りとセットの挨拶の取組」を広く大宮地域に波及できるよう取組を進めた。会員の皆様の思いや期待を運営に生かすことができた。</p> <p>(4) 学園だより、ホームページの更新等で、教育活動の発信に努めた。</p> <p>(5) 学園評価を実施し、今後に向けた評価をいただいた。</p>
----------------	--	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>【成果】</p> <p>(1) 学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営の統括、一貫した教育指導・活動を充実させることができた。</p> <p>(2) 経営会議の方針のもと企画運営会議が運営し、教育課程会議等各会議で一致して進めるシステムがさらに機能してきた。</p> <p>(3) すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」の育成に向けて取組を推進することができた。</p> <p>(4) 視点を明確にした授業研究会や夏季研でのこども園保育所の公開を通じて、幼児から小中学校への接続やその意義、授業研究の一貫性等大きな学びがあった。</p> <p>(5) 保幼小中の不登校状況である園児や児童生徒、配慮や支援の必要な子どもの状況を共通認識し、支援の在り方を探ることができた。</p> <p>(6) 不登校及び不登校傾向児童生徒に絞って事例研究を進めることで不登校に陥る背景の多様さと小中学校で配慮すべきポイントについて共通理解を進めることができた。</p> <p>(7) 学園の経営会議(校長)、運営会議(教頭)の両方で担当指導主事から具体的な資料を基に不登校の状況について確認する機会が設けられることで、教育支援部を中心として事例研究を通して不登校児童生徒の理解と支援について研究を深めることができた。</p> <p>(8) 校種間連携の必要性への意識が高まり、大宮中学校の小学校在籍時の欠席状況の情報提供(未然防止の観点)及び不登校傾向となった生徒に絞った小学校在籍時の学習の状況や欠席状況の情報提供(早期対応の観点)が進んだ。</p> <p>(9) 大宮学園運営協議会では、積極的で意義ある取組を進めていた。見守りとセットのあいさつの取組)</p> <p>(10) 新型コロナ感染防止の視点でいろいろな対応が求められる中、経営会議を中心として情報を共有し、共通認識を持って学園経営を行うことができた。</p>	<p>【課題】に対して</p> <p>(1) 学園評価を受け、保幼小中一貫教育の3つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園保幼小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。</p> <p>①市の教育課題改善のため、保幼小中一貫教育の目的についての共通理解を当初全体会で確實に行う。</p> <p>②その具現化に向け焦点化した大宮学園保幼小中一貫教育の重点策定を行う。</p> <p>ア 確かな学力の育成に向けて、「言語活用カリキュラム」の具体的指導の一貫性を図る。</p> <p>イ 人権意識の育成に向けて、「人権教育カリキュラム」を実施する。また、実施に向けた協議を大切にする。</p> <p>ウ ICTの積極的活用も含めた連携・体験活動を充実させる。</p> <p>エ 目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働を進める。</p> <p>(2) 大宮学園保幼小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。</p> <p>①教職員の保幼小中一貫教育の意識を向上させる。事業の継続から指導の一貫性へのステップアップを図る。</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善について、焦点を絞って研究を推進する。</p> <p>③「言語カリキュラム」と「人権カリキュラム」を一貫した指導の内容面として捉え、日々の授業の中で生かしていく。</p> <p>④連携教育活動を効果的・効率的に進める。</p> <p>⑤担任会・教科部会等を効果的・効率的に進める。</p> <p>(3) 不登校にかかる状況の把握、不登校児童生徒への指導支援の在り方と連携について学園として取組を進める。</p>

<p>(11) コロナ禍ではあったが、小中連携事業の他、小・小連携、幼保連携も可能なことを実施でき、継続した取組にできた。</p> <p>【課題】</p> <p>(1) 学園評価を受け、保幼小中一貫教育の3つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園保幼小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。</p> <p>(2) 大宮学園保幼小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。</p> <p>(3) 不登校・特別支援教育・就学指導に係る学園課題に対して、さらに実践研究を積み重ねる。</p> <p>(4) 教育支援が必要な幼児・児童生徒や、特別支援及び教育相談における校種間連携の仕組みを整え、校種間の円滑な接続を推進する。</p> <p>(5) 大宮学園運営協議会（学園コミュニティ・スクール）との協働をさらに進め、より地域とともにある学園（学校）を目指すとともに、地域に根差していくための工夫を考える。</p>	<p>①児童生徒の円滑な接続のための個別記録の活用及び不登校・不登校傾向児童生徒に特化した事例研究を継続して行う。</p> <p>②教育相談、不登校、家庭支援に係る情報交流と指導の在り方について継続して研究を進める。</p> <p>(4) 保幼小連携事業・保幼中連携事業・小小連携事業・小中連携事業を通じた接続連携を強化する。</p> <p>(5) 大宮学園運営協議会の来年度の方向性を踏まえ、来年度当初の協議会で具体的な提案を行い、活動を通してより地域とともにある学園（学校）を目指す。</p> <p>(6) 新型コロナ感染防止を徹底し、経営会議が各会議・部会の進捗状況を把握し、事業や取組を推進していく。</p>
---	--

令和3年度 網野学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】

あ：明るく元気に進んで学ぶ子
み：みんななかよく支え合う子
の：のびのび生き生きやりぬく子

【知】意欲的に学習に取り組む子ども
【徳】規範意識をもち、仲間と支え合う子ども
【体】粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども

【教育目標】

将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 確かな学力の育成	ア 主体的に学ぶ力とコミュニケーション能力の育成 (ア) 生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業の実現 (イ) 指導と評価の充実（指導と評価の一体化） (ウ) ICTの活用による授業改善 (エ) I期、II期、III期のゴールの姿となる指標づくり	イ 補充学習の充実 (ア) 基礎基本を定着させるための個別補充学習	ウ 家庭学習の充実 (ア) 授業とつながる自主的な家庭学習の実現 (ウ) 家庭学習の指標づくり	（イ）家庭と連携した学習習慣の定着の取組み
(2) 規範意識の醸成	ア 学習規律の確立	イ 生活習慣の確立		
(3) 豊かな人間性の育成	ア 自尊感情の醸成	イ コミュニケーション能力の育成	ウ 将来を展望する力の育成	

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	ア 学園内の全ての学校園所が、教育目標、目指す子ども像の共通化 イ 学園内の全ての学校園所が、学園経営方針・目指す子ども像の経営方針へ位置付け ウ 学園内の全ての学校園所が、「これだけは！」の各学校園所の経営方針へ位置付け	○学園経営の基本方針に基づいた「重点的な取組み内容」「行動連携」を具現化するために、経営会議で確認したことを、各会議・部会等で年間計画に沿って取り組み、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。また、今年度より事務部会の部長が経営会議に出席し、学園の経営に参画することができた。 ○学園評価アンケートを実施・分析を行い、次年度の計画の改善に活かすことができた。 【網野学園児童生徒アンケートより】 児童生徒アンケート肯定率80%以上の項目数 小1 (19/19) 小2 (10/19) 小3 (16/19) 小4 (18/19) 小5 (12/20) 小6 (19/20) 中1 (15/20) 中2 (14/20) 中3 (15/20) 概ね肯定的に捉えている学年が多い。 ・中学校は授業規律が身に付いてきている。自分で考え行動する力に繋がっており学校としての指導や取組みが成果として表れている。 *学校のきまりを守る。 1年:100% 2年:99% 3年:99% *時間を守る 1年:96% 2年:98% 3年:98% *服装や姿勢 1年:96% 2年:97% 3年:92% ・小学校においては、学年間、各学校間の差が見られる。 ○「網野学園保幼小中一貫教育だより」「網野学園保幼小中一貫教職員だより」「網野学園学校運営協議会だより」を通して、各学校園所・各部会・学校運営協議会の取組みを共有することができた。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	ア O期、I期、II期、III期の指導目標を踏まえた系統的な指導 ・I期、II期、III期のゴールの姿となる指標づくり	○児童の実態を学年部会で交流しながら指標について協議し、推進会議を中心にI期、II期、III期のゴールの姿となる指標を作ることができた。 ○小学校から中学校への円滑な接続を目指し、「6年生中学校部活動体験」「6年生中学校授業体験」を行った。今年度は、部活動体験を6月に

	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上システムプログラムの見直しと活用 ・学力充実月間 ・家庭学習の手引きの活用・家庭学習がんばり週間の取組 ・6年生中学校授業体験 ・6年生部活動体験 ・6年生単元総括テスト ・6年生学年末テスト ・6年生春季休業中の課題 ・中1ふりかえり集中学習 ・小4ふりかえり学習 ・京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 <p>イ 落ち着いた環境をつくるための規範意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これだけは!」「これだけは!」(授業編)の取組みの推進 ・生徒指導・教育相談に係る情報共有 ・乗り入れ授業、小小連携授業、小中連携授業 ・アプローチプログラム・スタートカリキュラムの作成と実践、検証 ・長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムの作成 <p>ウ 思いやりをもち仲間と共に生きる人間関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を生かした教育活動 ・アルミ缶回収・ボランティア活動 ・挨拶運動 ・不登校等学校不適応への対策及び未然防止 	<p>実施でき、中学校3年生を中心とした活動を体験することができたことで、部活動への不安解消と期待、部活動選択の一助に繋げることができた。また、中学校授業体験はもとより、日々の小中連携加配教員による授業(算数科)を小学5・6年対象に行つたことで、不安を軽減し、中学校への憧れを抱くと同時に学習に向かう力の高まりが見られるようになった。「6年生中学校体育祭取組み見学」については中止となつたため、映像等で取組みの様子が伝わるように工夫した。</p> <p>○情報モラルの学習について小学4年生と中学生を対象に、篠原嘉一氏(NIT情報技術推進ネットワーク)を講師にオンラインによる出前授業が実施できた。SNS、ゲーム等の使用におけるトラブルを知ることができ、今後の使用について見直すきっかけとなった。</p> <p>○「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を保幼小連携部で共有して連携を進め、短規モデルプランスタートカリキュラム、短期モデルプランアプローチプログラムの実践や検証を行いうことができた。また、網野学園各園所の実態に合わせてカリキュラムの編成を見直すことができた。</p> <p>○今年度、保幼小連携部を中心に令和4年度版長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムを作成することができた。</p> <p>○第2回全体研修会で各園所の公開保育参観を通して実態を把握し、実践発表を通して教育・保育について教職員一同が共通理解を図ることができた。</p> <p>○小中合同アルミ缶回収ボランティアに取り組むことで、子どもたちは網野学園の一員であることを意識することができた。また、中学生が小学校に出向き一緒に活動することで、児童会本部役員にとっては、中学生が自信をもって思いを表現し伝える姿に憧れをもち、目指す姿を学ぶ機会になった。中学生にとっては、小学生が一生懸命に取り組む姿を見て、アルミ缶回収に取り組む意義を考える機会となつた。また、小学1年生から6年生までが中学生から小学校時代に頑張つてほしいことを聞くことで、中学生をより身近に感じることができた。</p> <p>○不登校傾向及び不登校児童生徒について経営会議や運営会議で状況を共有するとともに、教育相談部を中心に事例研究会を行い、具体的な対応について協議することができた。また、園所から小学校へ、小学校から中学校への引継ぎシートで確実に情報を引き継ぎ、スムーズな接続ができるようにしている。今後も、10年間を見通して、学校園所が家庭との連携を進めながら、一人一人の児童生徒が、学校園所に適応できる力を身に付けていくようにしていく必要がある。</p> <p>○6年生中学校授業体験は、各小学校の児童をグループにして活動させたことで、個々の児童が交流する機会となり、中学校入学後のイメージをより具体的にもつとともに、同学年の仲間を知ることができ不安軽減に繋がった。</p> <p>○推進会議が中心となり、「単元構想シート」に基づいた授業改善を各校で進めることができた。網野学園授業研究会を2回実施し、事後研究会とともに実践交流を行い授業づくりについて協議することができた。</p> <p>○園所の先生方の授業研究会への参加、第2回全体研修会等での公開保育・実践発表の実施により、就学前から小学校への接続及び連続性のある指導等について網野学園教職員への共通理解を図ることができた。</p> <p>○各学校で招聘した講師による講演や研修会へ参加するなど、連携した学びの場を設定すること</p>
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	<p>ア 目指す子ども像の実現に向けた教職員の協働及び教職員の交流</p> <p>(ア) 教職員の合同研修会・実践交流の実施</p> <p>(イ) 授業研究会、園所参観を通した研修</p> <p>(ウ) 学年部会を通した研修</p> <p>イ 「自尊感情」と「コミュニケーション能力」の向上を目的とした交流事業</p> <p>(ア) 6年生網野中学校合唱祭参加</p> <p>(イ) 6年生体育祭取組み見学</p> <p>(ウ) 6年生部活動体験</p> <p>(エ) 合同校外学習及び学びの交流</p> <p>(オ) 小中合同交流事業(友だち交流会等)</p> <p>(カ) 小学校体験授業時の1年生との交流</p> <p>(キ) 5歳児交流会</p>	<p>○6年生中学校授業体験は、各小学校の児童をグループにして活動させたことで、個々の児童が交流する機会となり、中学校入学後のイメージをより具体的にもつとともに、同学年の仲間を知ることができ不安軽減に繋がった。</p> <p>○推進会議が中心となり、「単元構想シート」に基づいた授業改善を各校で進めることができた。網野学園授業研究会を2回実施し、事後研究会とともに実践交流を行い授業づくりについて協議することができた。</p> <p>○園所の先生方の授業研究会への参加、第2回全体研修会等での公開保育・実践発表の実施により、就学前から小学校への接続及び連続性のある指導等について網野学園教職員への共通理解を図ることができた。</p> <p>○各学校で招聘した講師による講演や研修会へ参加するなど、連携した学びの場を設定すること</p>

		<p>ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保幼小連携部には校長、教頭それぞれ1名が入り円滑な連携を進めることができた。 ○養護部会を必要に応じて開催し、児童生徒の実態等の共有を図ることができた。
家庭、地域との連携、情報発信	<p>ア 網野学園学校運営協議会の取組み</p> <p>(ア) 網野学園の教育や子育て環境について学校・家庭・地域が目標や課題を共有・協議し、具体的な取組みを推進して学園の教育環境づくりを進める。</p> <p>(イ) 網野学園保幼小中一貫教育の推進に向け、学校(PTA)園所(保護者会)、家庭、地域社会が連携・協働して取り組む。</p> <p>イ 京丹後市PTA協議会網野小中一貫校PTAの取組み</p> <p>(ア) 網野小中一貫校PTAとして、「学園合同挨拶運動・交通安全運動」等、一体となって取り組む。また、学園の「目指す子ども像」の実現に向け、保護者会とも連携して取り組む。</p> <p>(イ) どの家庭でも、幼児から大切にする「これだけは!」(家庭編)の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立 ・ 規範意識の基礎の確立 ・ 家庭学習の習慣化 <p>(ウ) 「子育て講演会(ゲーム・ネット講座)」を網野学園と網野学園小中一貫校PTAと共に実施する。</p>	<p>○網野学園学校運営協議会を計画的に実施し、学校・家庭・地域が一体となった必要な教育支援について意見交流し、学校づくりへの参画意識の高揚に繋がった。</p> <p>○学期に一度、網野学園合同挨拶運動・交通安全運動を設定して保護者だけでなく関係団体や地域の方々と協力し、全ての学校で実施することができた。</p> <p>○どの家庭でも幼児から大切にする「網野学園『これだけは!』(家庭編)」のリーフレットを保護者に配布し、保護者へ保幼小中一貫教育で大切にしたい視点を知っていただき、協力していただくことができた。</p> <p>○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが中心となり、学園だより、ホームページ、リーフレット等を通して、学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。</p> <p>○学校支援ボランティア等を活用し、網野町の住民が教育活動に積極的に参加できる取組みを進めることができた。</p> <p>○子育て講演会に篠原嘉一氏(NIT情報技術推進ネットワーク)を講師とし、オンデマンドで動画配信することができ、保護者がSNS等について学べたことは、家庭での生活習慣の確立を図る上で有効であった。来年度は、講師を招聘して講演会を実施したい。</p>

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>(1) 組織体制及び運営上の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運営会議を定期開催し、学園内の教育課題を共有し、教育目標・目指す子ども像の実現に向けた経営を行うことができた。また、今年度より事務部長が毎回参加することで、経費等の面からもより一層保幼小中一貫教育を進めることができた。 ○学園経営の基本方針に基づいた「重点的な取組み内容」「行動連携」を具現化するために、経営会議が中心となり、各会議・部会等で組織的に進めることができた。 ○運営会議、推進会議、領域部会の取組の進捗状況を把握し、成果・課題を整理し、総合調整や改善に努めた。 △各領域部会で、それぞれの課題に沿って計画的に実施することができたが、生活習慣とSNSの関連性等、領域部会等が連携して課題解決に向けて検討していく必要がある。 	<p>(1) 組織体制及び運営上の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経営会議は、今後も、学園内の教育課題、各会議・部会等の動きを把握しながら、年間を通して課題を整理したり、新たな取組みを提起したりして、的確な学園経営を行う。また、各会議・部会担当校長・教頭は、経営会議に連絡報告及び決済を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組みを進める。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが、各学校園所への訪問、各会議・部会への参加を行い、状況把握と内容整理、調整を図る。 ○「確かな学力の育成」に向けた大きな柱として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを中心に研究を深め、実践を積み上げる。 ○網野学園の授業研究のテーマを基盤にして各校の授業改善を図る。なお、授業研究の教科については、それぞれで決定し研究を深める。 ○児童生徒の生活習慣やSNSとの関連性の改善に向けて養護部会と生徒指導部会の連携を図る。 ○保幼小連携部会の担当者が同一校にならないよう調整し体制を組む。 ○令和4年度、第1回研修会(5月2日)第2回研修会(8月18日)第3回研修会(2月17日)の年3回の研修会を節目として研究を深める。 ○第2回全体研修会(夏季)については、網野学園小中学校全教職員で園所参観を行い、児童の実態把握や教育・保育実践について共有化を図る。また、網野学園教職員が学べる場として講師を招聘し研修を深めていく。 ○学年部会については、年4回実施する。(5月・6月・7月・1月)授業日における開始時刻は午後4時からとするが7月は午後3時からの設定とする。各小学校の授業公開と関連させたり、計画に沿った十分な準備をする等見通しをもつたりして運営し、限られた時間の中で学年部会の研修の充実を図る。 ○小5、小6学年部については担任と中学校数学、

<p>(2) 重点的な課題・取組について</p> <p>教育目標・目指す子ども像・学校経営方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育目標及び目指す子ども像の実現に向けてPDCAサイクルで学園経営を行うことができた。 ○園所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通した実践研究を意欲的に進めた。また、網野学園全教職員による園所参観及び全体研修会での園所の実践報告を通して、園所の教育・保育の理解を更に進めることができた。 ○中学校卒業までの目指す姿の共有と系統的な教育、一貫した指導の継続を行うため、推進会議をもとに指標づくりをすることができた。 ○重点的な取組内容として、平成28年度より「規範意識の醸成」「確かな学力の育成」「豊かな人間性」に取り組んできた。行動連携「これだけは」については基礎的なことでもあり、網野学園がスタートしてから継続して取り組む中で積み上がりつつある。 <p>確かな学力の育成について</p> <p>△確かな学力の育成については、網野学園の最重要課題であるため、授業づくりを中心に研究を進めてきた。児童生徒アンケート結果から学習意欲、学習内容の理解については肯定的な評価(90%)が高い。しかし、自分の考えをもち交流することは学校間・学年間に差が見られる。また、家庭学習について小中の接続をより丁寧に指導し、学習時間はもとより、自ら学習する力を育成する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学6年生においては、思考力・判断力・表現力を付けるために、単元終了時に学習内容の理解度・定着度の検証や把握をするため、単元総括テストを作成し、実施することができた。 ○推進会議を中心に行なう授業研究会を年2回実施し、学園のテーマである「『主体的・対話的で深い学び』の実現を通して確かな学力を育成する」をもとに、授業実践を深めることができた。 	<p>英語担当教員、小学校理科専科で構成する。(配置があれば) 5年部会…中学校英語科担当教員・小学校理科専科 6年部会…中学校数学科担当教員 ○学年の課題から必要に応じて学年部会を開催できるものとする。 ○領域部会については、必要に応じて開催する。</p> <p>(2) 令和4年度に向けての重点的な課題・取組の方向</p> <p>教育目標・目指す子ども像・学校経営方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育目標「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進」及び目指す子ども像の実現に向けて、PDCAサイクルで学園経営を行う。 ○園所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通した実践研究を意欲的に進めていく。また、子どもたちの成長を連続的なものとして捉える際に役立てながら、園所と小学校との連携を一層進める。 ○令和3年度に作成した指標を基に、その実現に向けた経営を行う。 <p>確かな学力の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン、ゴールの姿をイメージした単元全体を通した授業づくりについて、研究・実践を推進会議が中心となり進める。なお、学力向上に関する内容について協議する際は、小中連携加配も推進会議に参加する。 ○網野学園「これだけは！」(授業編)から更に進んで、授業づくりの視点や留意点に重点をおいた授業改善を進め、確かな学力の育成を目指す。更には、非認知能力を伸ばすことが認知能力を伸ばすことにつながることから「学びに向かう力、人間性の涵養」の観点から「主体的に学ぶ力」、「コミュニケーション能力」の育成に視点をおいた授業実践を行う。 ○OGIGAスクール構想による一人1台のタブレットを活用した授業改善を進め、実践を積み上げる。 ○単元全体を構想することで、授業のゴールの姿を明確にし、子どもが主体となる授業づくりを進める。子どもの活動時間を確保し、学力の向上を目指す。 ○確かな学力を身に付けさせるため、推進会議が中心となり、各校の実態や状況を交流し授業改善に活かす。また、各種テストの分析を丁寧に行い、課題に対して各校の実態に応じた手立てを講じる。 ○学園として、家庭学習・基礎学力の定着に取り組む。特に家庭学習については保護者とも連携し、家庭学習習慣の定着・内容の充実(自主的な学習)を目指した取組みを更に進めていく。 ○小学6年生においては、思考力・判断力・表現力を付けるために、単元終了時に学習内容の理解度・定着度の検証や把握をするため、引き続き単元総括テストを作成し、実施する。 ○小学4年生においては、I期の最終学年であり、基礎基本の定着に向け小4ふりかえり学習を継続して実施する。 ○学園としてI期からIII期までの指導指標を示し、家庭学習における目指す子どもの姿を児童生徒、教職員、保護者が共有し家庭学習に取り組み、確かな学力を付けていく必要がある。また、園所においても保護者の協力を得ながら、家庭学習がんばり週間を同一時期に実施する。
---	---

規範意識の醸成について

- 「規範意識の醸成」については、児童生徒及び教職員アンケート結果や児童生徒の状況から中学校においてはほぼ定着（99%）してきている。小学校では、学校間、学年間に差が見られ更に定着させるための取組が必要である。
- △行動連携『どの家庭でも、幼児から大切にする「これだけは！！」（家庭編）』の中の、規範意識の基礎の確立の中で、「テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める」を挙げている。しかし、網野学園生徒指導部のアンケート結果からも、大きな課題になっている。

規範意識の醸成について

- 網野学園「これだけは！」、網野学園「これだけは！」（授業編）の見直しと改訂を推進会議を中心に行い、各校で継続して取り組み、落ち着いた環境づくりを進める。
- 情報モラルについての出前授業を小学4年生、中学生、網野学園保護者を対象に網野中学校を会場として実施し、経営会議、運営会議が主体となって運営する。保護者の部（子育て講演会）については、主催は網野学園とし、運営は運営会議が行う。また、PTA及び保護者会とも連携し進める。
- 社会的にもゲームやインターネットの使用による健康被害（ゲーム依存症）が問題になっていることからも、自己コントロールができる力を身に付けるために、生徒指導部と養護部が連携しながら、系統的な指導を進める。

豊かな人間性について

- △「豊かな人間性」については、アンケート結果から学年が上がるにつれ、自己肯定感や自尊感情にかかる項目が低くなっている。
- △学園評価アンケートから「自己肯定感」や「将来の夢や目標」をもつ児童生徒の割合が学年が上がるにつれ、減少する傾向にある。
- 不登校傾向児童生徒について毎月挙げるとともに、経営会議、運営会議等で確認し実態交流を行った。
- 引継ぎシートを丁寧に作成し、園所小間、小中間の繋ぎを確実に行うことで不登校の解消に繋げている。
- 教育相談部で事例研修会を実施し、不登校児童の事例をもとに児童生徒とのつながりや家庭支援の手法等を学ぶことができた。また、SCやSSWの専門機関と連携を図り、状況改善に向けての取組みを進めることができた。

豊かな人間性について

- 自己肯定感をもち将来を展望できる力を育むことができるよう、より一層豊かな人間性を育む学習や活動を取り組んでいく必要がある。
- 多様で複雑な不登校の要因や背景をできる限り的確に把握し、切れ目のない組織的な支援をしていく。重点的な取組み内容の中の「豊かな人間性の育成」に位置付け、「自立的に生きる基礎の確立」に向けて、家庭と連携し系統的に取組みを進める。

保幼小中一貫教育の具体的な内容

- 網野学園Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期のゴールの姿を各学年部会で実態交流をもとに育てたい力を確認し、進会議を中心に指標づくりを行うことができた。
- 新型コロナウイルス感染症予防対策のため、変更を余儀なくされた行事や取組みがあつたが、工夫をしながら多くの事業や行事を実施することができた。
- 保幼小中一貫教育学園コーディネーターが、各会議、各部会等に参加し経営会議での方向性等について把握し、整理したり調整したりしながら、目的に沿った連携や取組を進めることができた。各園所・小学校を訪問し、各校の授業や取組みを便り等で発信し学園内の各園所小通学校間をつなぐことができた。
- 保幼小中一貫教育学園コーディネーターが網野学園運営協議会の事務局を務め、地域学校協働本部地域コーディネーターと共に、丁寧な連携を進める中で、保護者・地域の方々の学園運営への参画意識の高揚につながった。

保幼小中一貫教育の具体的な内容

- 作成したⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期のゴールとなる「指標」を目指して実践し、改訂を行う。
- 部活動体験は中学3年生が活動している6月に実施する。また、6年生対象入学説明会・中学校授業体験は11月に実施する。
- 5歳児が一堂に会し、他の園所の仲間と交流を深めるため、5歳児交流会を実施する。
- 短期モデルプランアプローチプログラム、短期モデルプランスタートカリキュラムの検証は、保幼小連携部と小1学年部が中心となり行う。
- 長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムを実践し見直しを行う。
- 各園所は近隣の小学校行事等の見学を通して、子どもたちが小学校施設への出入りや行事を知る機会を設定する。
- 学園の課題である「基本的生活習慣の確立」「規範意識の基礎の確立」「家庭学習の習慣化」について網野学園小中一貫校PTAとして、園所保護者会とも連携し課題解決に向けて取組みを進める。
- 就学前から中学校卒業までを見通した家庭との連携を進める上で、園所保護者会との連携を進める。
- 網野学園学校運営協議会での交流・協議を通して、更に学校・家庭・地域が参画意識を高め、一体となって教育力のある学校づくりを目指す。
- 学園評価アンケートについては、指導と評価の一体化の視点から、年度当初に評価内容等の見直しとその周知を行い、目標達成を意識した実践ができるようにするための改善を図る。

令和3年度 丹後学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

- ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】
 ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】
 ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】

教育目標 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- ①研究主題を『主体的・対話的で、深い学びの授業づくり～生徒指導の3機能を生かして～』として、「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」などの機能をどのように生かすかなどを重視する中で、国語を中心に教科等の特質に応じた見方・考え方を踏まえた「主体的・対話的で、深い学び」となる授業改善を行い、確かな学力の育成につなげる。
 ②保育所・こども園・学校間が連携して、就学前から中学校卒業までを通して適時性、一貫性・連続性のある教育課程を編成し、小中合同事業・保幼小接続に係わる事業・小小連携合同事業と3つの事業の充実を目指す。
 ③丹後学園の取組や事業等を積極的に発信することで保護者や地域の方の理解を一層深める。

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・児童生徒の姿・教職員の見方等)
児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	<p>①子どもの交流を図る行事等の実施を通して、「集団生活の中で人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高める。</p> <p>②重点教科を「国語」とし、他教科の指導についても同様に主体的な学びに向けた実践を積む。学年部会では、算数科の授業づくりも検討・交流し充実させる。</p> <p>③全体研修会、授業を通した研修会(3回)、学年部会を通した研修を計画的に実施し、目指す子ども像の実現、目指す教師像の意識化に努める。</p> <p>④月1回の計画的な経営会議(校園所長会議)を開催し、正確な実態把握に基づく方針を策定し、全教職員への情報提供を行う。</p>	<p>○昨年からの新型コロナウィルスの影響で行事に対して制限があり、経営方針や計画について、予定どおりに進めることができなかつたが、リモートでの授業や、部活動見学、授業体験等は実施することが出来た。(10月27日の中学校の公開授業は実施できた)また、昨年度、立ち上がった丹後学園学校運営協議会の委員の方々には、挨拶運動や授業や体験活動等の参観をとおして、小中の連携や子どもたちの実態を見ていただく機会となった。</p> <p>○経営会議を定期化し、運営会議・教育課程会議と学力充実部会・教育相談部会・生徒指導部会・保園小接続部会の取組の進捗や実践後の成果・課題を交流し、今後の方向性を示し取組を進めることができた。</p> <p>○国語を小中がともに重点に置き、授業の公開や事後研が実施できた(小中共に実践してきた説明文について、小中の一貫した指導が確認できた)。</p> <p>●一斉学年部会でICT活用に関わる使用頻度や指導した内容等、中学へ入学するまでの実態を把握しておくことや中学校での定期考査について小学生の不安解消をしていく。(定期考査のガイダンス、体験実施等) 《事務局会議(代表・庶務・学園コーディネーター)》</p> <p>○事務局会議を開催し、学園内の教育課題を把握し、教育目標の達成に向け経営会議等の調整・事務作業を行った。</p> <p>○学園経営方針に基づき、運営上の課題の検討や調整を行い、各校での年度初・末全体研修会、夏季研を充実させるために事前準備、事務作業等を進めた。</p> <p>○経営会議の内容について即日コーディネーターがまとめ、各校・園・所に発信した。</p> <p>○教育目標、目指す子ども像を保幼小中で確認し、子どもたちの成長と発達の特性や課題を共有して適切な指導を継続してきた。また、指導については一貫性や連続性を意識した実践ができた。</p> <p>○各学校等で課題に応じた教育実践を行い、全て</p>

		<p>の学校等が中学校を卒業する姿を想定し、生きる力の育成につながる指導ができた。(自立につながる意図的な指導)</p> <p>●次年度さらに保幼小中一貫教育を推進していくため、0期からⅢ期の各段階でつけるべき力の指導方法の適時性や一貫性・連続性の研究をしていくことが必要である。</p>
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	<p>①就学前から中学校までの一貫した生徒指導、自己有用感を高める生徒指導を進め、コミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>②指導方法の系統性や一貫性を重視するために、「目標と指導と評価の一体化」の観点から国語を研究し、指導の方向を2小学校でそろえる。</p> <p>③総合的な学習の時間を活用した「丹後学」を教育課程に位置づけ、実践研究を進める。</p> <p>④学習指導・生徒指導を大きな柱として、10年間を見通した取組を展開する。</p> <p>⑤小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園と小学校との連携を進める。</p> <p>⑥中1ギャップ解消のため小学6年生と中学生との交流事業や体験学習等を推進する。</p>	<p>○昔話や物語をもとにした創作劇や地域と連携し、地域から学ぶ学習結果の発表は、大きな自信となった。(探求し、伝える内容をわかりやすく工夫した表現や、友達を思いやり協力したり折り合いをつけたりしながら味わう達成感、成就感が次の課題へ挑戦しようとする意欲を高めた。)</p> <p>○「中学校授業体験、部活動見学」「小学校合同校外学習」「丹後こども園・宇川保育所合同での1年生と5歳児のなかよし交流会」等、コロナ禍の制限がある中、効果的に進めることができた。(つけるべき力をつけるべき時期にける、小学生や中学生の自信につながる取組)</p> <p>●育てたい方が、より検証しやすい取組の計画と予想される課題に対する改善策の検討を進めることである。</p>
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	<p>①2小学校が集合して実施する事業と各校で共通して実施する事業を行う。【2小学校合同事業】</p> <p>②教職員全体研修会・授業研究会を年間3回実施するとともに、保幼小接続部会や期別部会・学年部会を開催して、それぞれの課題の改善や解決に向けた取組を実践する。</p> <p>③中学校1年生入学後1ヶ月ごろの状況及び出口となる中学3年生の授業公開を行い、多様な視点で課題共有すると同時に指導について研究協議を行う。(第Ⅱ期及び中3の公開授業)【小中合同事業】</p> <p>④教職員間…学年部会での授業研究会・統括テストの活用、保幼小接続部会でのスタート研修会【保幼小接続に係わる事業】</p> <p>⑤保幼小の子ども…5歳児と小1年生との交流会(2回) 保幼小の教職員…5歳児と小1担任の夏季研修会、テーマは「話す・聞く」</p>	<p>○小、中学校の授業公開と事後研が実施でき、小学校の指導が中学校でつながり、連続し発展してきていることを振り返る意義ある機会となった。</p> <p>○本年度の夏季研修では、子どもたちに確かな学力と豊かな社会性を身につけることがとても重要であると講演された内容を教職員全体で確認できた。</p> <p>○小小合同行事、小6部活見学、小6授業体験、ふれあい交流会等は中学校生活への不安を解消する機会になった。新たに今年度は、園所の交流行事を行うことができた。</p> <p>●行事の精選や実施形態の工夫が要る。(ICTの活用等)</p>
家庭、地域との連携、情報発信	<p>①「丹後学園学校運営協議会」の機能化と充実を図る。(年間2回)</p> <p>②「丹後学園だより」等を発行し、保護者や地域に配付することで、理解を得られるようにする。また、各校のホームページにて、取組の状況を発信するように計画する。</p> <p>③学校支援ボランティアの方々による支援をいただき、教育活動の内容充実に努める。</p>	<p>○予定していた年間計画は、延期や中止をせざるを得ない実状もあったが、実施形態や実施期日を変更したり、時間差を設けたり参觀等工夫をしながら教育活動を行った。</p> <p>○年度初めに詳細が確定できなかったが、小中一貫校PTAと市教委とともに教育講演会を開催し、子どもの自尊感情を高めることや子育ての基本軸となること等を保護者、地域住民と学ぶことができた。</p> <p>○学校と家庭、地域社会の横の連携を深めるために丹後学園学校運営協議会、町内民生児童委員、主任児童委員、保護司、各種団体の方々に保幼小中一貫教育の支援、協力、理解を得ることができた。</p> <p>●保幼小中一貫教育の成果として頗われた子どもたちの成長を広く発信し、地域住民へ学園のめざすところがさらに浸透するようにさせていくことである。</p> <p>※次年度は、10月28日(月)予定している教育講演会を学園PTA行事として、位置付ける。</p>

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>今年度の成果</p> <p>①導入準備期間を含め 7 年間行ってきた実践を活かして、本実施 6 年目の丹後学園の経営を行った。組織や会議について当初計画したことが、コロナ禍で、変更を余儀なくされたが、安全を優先し、可能な範囲で実施できた。</p> <p>②丹後学園運営協議会（名称：丹後学園教育応援会）を立ち上げて 2 年目で、地域への啓発に心がけ、限られた参観者であったが、活動が前へ進んだ。</p> <p>③小・中学校だけでなく、こども園・保育所も含めた取組の実践を進め、『主体的・対話的で深い学び』による指導改善をテーマに掲げ、各保園中のそれぞれの実態に合った研究が進んだ。保育所やこども園の園児の状況を学園として情報共有を行うことができ、保園小の接続に関する学園としての研修が進んだ。</p> <p>④小 1 プロブレムを解消するための、保育所やこども園の園児の状況を学園としての情報共有と交流を丁寧に行い、令和元年度の「教育フォーラム」で発信した「丹後学園」の研究の深化・検証の推進を行った。</p> <p>⑤小学校間（校区 2 小学校）の学年ごとの合同学習、修学旅行等を行い、児童の交流が深まると同時に教員の指導方法等の交流も深めることができた。</p> <p>⑥2 学期末に 6 年生の授業参観と懇談をもつことによって、小中の連携の円滑な接続が組織として積極的にできた。小学校においては、3 学期にどのような力をつけて中学校に送り出せばよいのか見通しをもつことができ、中学校においては、余裕をもって各学校の集団の雰囲気や児童の実態や課題などの把握ができ、入学後の見通しがもてた。</p> <p>⑦小学校在籍中 15 日以上欠席のある児童の個別記録「丹後学園教育相談ファイル」を作成し、実態や指導・支援のあり方等を円滑に中学校に接続する予定である。</p> <p>⑧限られた中であってもリモート研修などの工夫を重ね、小学校と中学校との教職員の意見交流及び合同研修を通して、相互理解を深めることができた。また、実態に応じた指導方法の工夫・改善について、各校ごとの授業研究会を通して研究協議を行い、前進させることができた。また、ゴールとなるめざす中学 3 年生の姿を共有することができた。</p> <p>⑨昨年に引き続き、算数・数学の指導に加えて、読む力の育成を重点に研究を行うことで、目標と指導と評価の一体化を目指す授業づくりの研究の充実を図ることができた。</p> <p>今年度の課題</p> <p>①今年度の研究テーマを継承しながらも、児童生徒の実態から、次年度は読む力の育成カリキュラムの系統性の教科研究を深めていく。</p> <p>②学力向上に資するための「モデルカリキュラム」の活用の模範的な研究を進める。</p>	<p>○経営会議は、学園内の教育課題、各会議や部会等の活動状況を把握しながら、恒常に課題を整理や新たな取組を提起し、学園経営を行う。</p> <p>○各会議・部会担当校園所長は、経営会議に事前連絡、事後報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進めていく。</p> <p>○部会は、学力充実部、教育相談部、生徒指導部・保幼小接続部の 4 部会とする。</p> <p>○教育課程会議兼学力充実部会については、教務主任が担当し、学力の調査・分析や学力・授業力向上を図る計画・実践に関わる進行管理、検証等を行う。（※研究のテーマ「主体的で、深い学びの授業づくり～生徒指導の 3 機能を生かして～」を追究し、国語を重点教科として論理的に思考し、読む力を高め、適切な判断と表現ができる力をつけることを目指す）</p> <p>○令和 3 年度と同様に、重点的な取組内容として「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力」「評価を通した取組の充実」を設定していく。</p> <p>○「確かな学力の育成」に関しては、幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿についての研究・実践や各教科の目指す資質・能力のために生徒指導の 3 機能を授業にどのように活かすかを研究する。具体的には、文章を正しく読み取り、じっくり考え、適切な表現ができることをめざす。授業研究の教科として『国語』（児童生徒の実態、課題克服の必要性があるため）。また、算数についても課題克服のため、学年部会で授業づくりを検討したり、総括テストを活用・実践したりして指導の検証や児童の学力実態を把握し、授業改善につなげる。</p> <p>○「コミュニケーション能力」に関しては、発達段階の各期におけるコミュニケーション能力に係る言語活動の評価のポイントを学園で共出し、各園所学校の保育・教育活動、各部会（4 部会）の事業内容に、コミュニケーション能力の育成につながる計画を立案し行う。相手を思いやる心や折り合いをつけたり、協調したりする寛容な心の育成が人間関係の基盤となり、良好な関係の構築につなげさせていく。</p> <p>○「目標と指導と評価の一体化」に関しては、学年部会では、課題となる算数の単元に着目し、これまで作成した総括テストの活用及び授業研究を行い、授業改善を図る。また、中学校では授業における指導目標をもとに指導した結果を定期テストで分析し、具体的な改善策を導き実践する。また、市保幼小中一貫教育授業研究については、学園全体で、就学前から 10 年間の学びを学園として今後どのように進めていくべきか、保幼小中一貫教育モデルカリキュラムに示されている計画や指導に照らし、言語活動や学び方等の中から、本学園が重点としている内容を再整理していく。</p> <p>○学園評価については、2 学期末までに児童生徒、保護者、教職員、学校関係者（学校評議委員、学校運営協議会委員、民生児童委員）が、教育目標の達成に関わる内容をアンケートに回答し、その結果を分析する。成果と課題をより明確にさせ、具体性のある改善策を検討していく。</p> <p>○保幼小接続部として、保育所・こども園の保護者に対して、小学校で必要な力や社会性など一緒に学べる機会を設定していく。</p> <p>○小学校で気になる児童が、中学校で適応しにくくなることもあるので、児童の見立てや支援、家庭との連携を大切にして教育相談活動を行い、小学校での様子（本人・家族・医療との連携等）を丁寧に記録に残し、中学校につないでいく。</p> <p>○学園 PTA と連携し、「家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭学習習慣の確立を目指した取組を更に進めていく。</p> <p>○ケース会議等を通じて、本人を取り巻く生活環境や保護者の生育歴等の実情を踏まえるとともに、子の将来を見据えた指導の支援策を関係機関と連携を図り、対応していく。</p>

令和3年度 弥栄学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

教育目標

「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」

目指す子ども像

(知) 知識と技を磨き、活用する子 *自ら課題に取り組む（自主的な姿勢）

(徳) 自他の良さを知り、共に伸びる子 *仲間と知恵を絞る（対話的な学び）

(体) 心身を鍛え、何事もやりぬく子 *解決策を探り、自信をつける（深い学び）

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進
 - ・授業実践力等の向上（他校種研修、授業研究会、全体研修会等を通じて）
- 2 自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の3機能を生かした実践の推進
 - ・異年齢の交流活動、自尊感情、自己有用感、上級生への憧憬
- 3 教育活動全体を通して「思いやる心」の育成
 - ・教科としての道徳の授業改善
 - ・情報を吟味し精査する力の育成

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・児童生徒の姿・教職員の見方等)
児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	<ul style="list-style-type: none"> ①学園の組織改編及び進行管理 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程会議に学力充実部を統合する。 ・特活部を廃止し小中の交流活動の企画立案や連絡調整は運営会議が行う。 ・学年会を学年ごとの開催や、低学年部、中学年部、高学年部の開催など協議内容で変更する。 ・特支担任会を学年会に位置づけるとともに、教育支援部を廃止する。 ②目指す児童像の実現につなげるための子どもの実態把握・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・学力や生活、家庭環境等、より深い子どもの実態把握と分析を進める。 ③一堂に会した全体研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・4/30 第1回全体研修会〈各校〉 ・8/19 第2回全体研修会〈弥栄中〉 ・2/17 第3回全体研修会〈各校〉 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度の総括をもとに学園組織体制の改編を行ったことで各会議や部会ごとの役割分担が明確になった。 ○各会議や各部で学園内の児童生徒の交流を様々な視点から行うことで、指導や取組みの方向性を決めることに役立った。 ○第2回の全体研修会では、教育課程会議から児童生徒の学力の実態と分析の報告があり、学力課題と授業改善の方向性について共通理解を深め、学園全体で取組むことの重要性が再認識できた。 ●コロナ禍のため、第1回と第3回の全体研修会が紙面による実施となった。学園全体で集まり、学び交流する機会が第2回の一回だけになつたのは非常に残念であった。第3回では、不登校に関わる講演を計画していたが中止となり教育相談に関する研修と交流の場を持つことができなくなつた。全体研修会が開催できなくとも、学園の方針、教育目標、重点課題、取組みの柱等を各学校や園で周知徹底し、学園全体でさらに共通認識を深めていきたい。来年度は、全体会が学園の教職員にとって、さらに実践力を高められる研修の場となるようにする。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ①学力向上と授業づくりの取組み <ul style="list-style-type: none"> ・6/16 第1回合同授業研究会 〈弥栄小〉 ・11/17 市保幼小中一貫教育授業研究会 〈弥栄中〉 ②授業改善における各期のゴールの姿の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・「『主体的・対話的で深い学び』における目指す姿」を活用し、発達段階を踏めた指導を推進する。 ③学園教職員による弥栄こども園参観 <ul style="list-style-type: none"> ・8/17 弥栄こども園参観〈中止〉 	<ul style="list-style-type: none"> ○6月の合同授業研究会（弥栄小）、11月の京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会（弥栄中）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、「生徒指導の3機能を生かした学級経営」を授業改善に生かしていくために、保幼小中の教員が一緒になって事前研修会を行い、授業づくりを行った。指導の中で保幼小中のそれぞれが大切にしているところを交流しながら指導案づくりをすることができ、発達の段階に応じた小中の継続性のある授業づくりをすることができた。 ○教育課程会議が作成したO期からIII期の「主体的・対話的で深い学び」における目指す姿を踏まえて、2学期からの授業実践のポイントを焦点化することにより、授業改善の視点が明確になった。 ○学園の児童生徒のアンケートでは、「国語の勉強は好きだ」の肯定的評価が9ポイント、「算数（数学）の勉強は好きだ」の肯定的評価が8ポイント、昨年に比べて増加した。また、「話し合い学習では、司会や記録などの役割を決めて話し合

		<p>っている」の肯定的評価が7ポイント、「友達と話しあうとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的評価が5ポイント昨年に比べて増加した。この結果から学習に対する意欲、学習内容の理解が高まり、ペアワークやグループワークが授業に積極的に取り入れられたことで、子ども同士お互いの意見を尊重する態度が育つてきているように考えられる。</p> <p>●コロナ禍で、こども園の参観ができにくい状況にある。こども園の実践を知ることは小中学校においても大切なことであるので、今後も継続して計画していく。</p> <p>○こども園の年長児と弥栄小、吉野小の1年生が合同交流を行い、一緒に楽しく活動することができた。学園の重点課題や研究主題を踏まえ、系統的な視点を持った園小の接続、小・小の効果的な交流ができた。</p> <p>○弥栄小と吉野小の同学年で交流行事や合同の取組みを実施した。合同の取組みでは、両校の児童に役割を分担するなどして児童が主体的に取り組めるように心がけた。また、児童の実態に応じた「付けたい力」を検討し、交流行事の事前指導に役立てた。</p> <p>○学年会では、交流行事や合同の取組みの運営について児童数や児童の実態に応じて、子どもたちに力をつけられるように協議しながら取組みを行った。また、教材研究や授業の指導に関して、授業実践や単元計画、指導方法等を交流し、自校の実践にいかすことができた。</p> <p>○部活動体験（5年：見学、6年：体験）では、中学校の部活動が実際の様子を知り、中学生と交流できたことを大変喜んでいた。入学したらどの部活に入りたい等、中学への入学に対する期待を寄せる声がきけた。中学校に入学することに対する不安の一つに先輩との関係をあげられるが、実際に部活動で中学生と交流することで、先輩のやさしさに触れ不安の軽減につながった。中学生にとっても、自尊感情、自己有用感を感じられる生徒指導の3機能をいかす取組みになった。</p> <p>○今年度、小学6年生の中学校授業体験は、実技（体育）と5教科（英語または数学のどちらか選択）を実施した。中学校の体育館や教室で授業体験を行うことで、中学校の授業の雰囲気に触れ、中学校入学が楽しみであると期待を高めた。</p> <p>○経営会議をはじめ、各会議、各部会で園児、児童、生徒の状況（生徒指導の状況、不登校、家庭環境等）を交流し、学園全体で情報を共有し各校、園での指導にいかした。</p> <p>○スクールカウンセラーによるストレスマネジメントの授業や、児童生徒や保護者に対するカウンセリングの実施により、学園全体の園児、児童、生徒や保護者の様子を把握して頂いている。そのうえで、教育相談部会へ出席していただき、専門的な助言や見立てによって、子どもや保護者への対応や不登校の未然防止につなげた。</p> <p>○引継ぎシート等とともに小中の連携や交流を密にして、配慮を要する生徒への丁寧な対応をすることができた。</p> <p>○情報モラル学習会では、発達の段階に応じた講演をいただき、児童生徒のみならず教師も、情報モラルに関する多くの学びを得ることができた。中学生の中には、講演のメモを家に持ち帰り、保護者に対してスマホの設定について注意喚起するなど、効果は絶大なものであった。</p> <p>●コロナ禍で保幼小中の交流行事の多くを変更や中止せざるを得なかつた。交流行事は小学校入学や中学校入学に対する子どもたちの不安を軽減することに大きな役割を果たしていただけに、入学後の子どもたちの様子をこれまで以上に丁寧な対応が必要である。</p>
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	<p>①幼児・児童・生徒交流 地域の特性を取り入れ 10 年間を見通した連続的な活動を実施する。 ・学年交流活動 ・小中連携活動 ・保幼小連携活動</p> <p>②学年担任会の設定 ・4/20.8/19.1/7 計 3 回</p> <p>③いじめ、不登校等の解消に向けた教育相談の体制づくり ・学園内の情報共有 ・SC によるストレスマネジメント授業の実施 ・小中連携に係る引継ぎシートの効果的な活用</p> <p>④情報を吟味し精査する力の育成 ・講師を招聘しての学園情報モラル教育を開催する。</p>	

家庭、地域との連携、情報発信	<p>①家庭、地域との連携・情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥栄学園運営協議会との地域連携・教育環境づくりを進める。 ・弥栄学園便り等による広報活動を積極的に行う。 ・学校行事等において学校支援ボランティアを積極的に活用することを通して交流を深める。 	<p>○弥栄学園運営協議会の活動が2年目となった。コロナ禍で学園の取組みを参観していただく機会が限られていたが、熱心に参加していただき、地域の方として学校の外から見た弥栄学園について貴重な意見を頂くことができた。</p> <p>○地域のボランティアの方々に、こども園や各学校の教育活動や交流事業に快く多くの支援を頂くことができた。子どもたちと地域の方々との交流や学園に対する理解が深まり、学園・家庭・地域が連携した「横の連携」を深めることができた。</p> <p>○こども園、各学校が、たよりやホームページで取組みを発信するとともに、保幼小中一貫コーディネーターが学園だよりの発信や弥栄学園運営協議会の取組みをコーディネートして、広く学園の活動について啓発を行った。</p> <p>●学園の活動や教育目標に対してさらなる理解や協力を得るために、啓発活動と同時に運営協議会と学園PTAと連携した活動にも取り組んでいきたい。</p>
----------------	---	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>1 弥栄学園経営及び進行管理</p> <p>○数部門を統合して本学園の規模に応じた組織改編を行った。その結果、ライン組織が明確になって各会議が組織的に機能し、経営会議のスムーズな進行管理につながった。</p> <p>●年3回の全体研修会は、教職員の共通理解と相互信頼をもたらし、協働体制を固める原動力になるものである。これを最大限に重視して学園経営に反映させたかったが、今年度も感染症対策等のため開催直前で変更し、集合型の研修会は1回のみとなった。</p> <p>2 授業づくりの取組み</p> <p>○計画通り年2回の授業研究会を実施することができた。学園の研究を整理し、授業実践につなげる大切な取組みとなった。今年度は教育課程会議がリーダーシップを發揮し、事前研において園小中教員が指導案作成に携わることができた。</p> <p>●教育課程会議が中心となり、研究授業に至るまでの日程や研究の方向付け、実践と検証、まとめと今後の課題など、研究を推進するための具体的な計画を綿密に立てる必要がある。</p> <p>3 交流連携の取組み</p> <p>○交流・連携やすい校園数等をいかし、今年度も園児・児童・生徒の交流活動を計画した。残念ながら感染症等の影響でいくつかの交流活動が中止等になったが、教育活動の連続性・協働性につながっているものと考える。</p> <p>●例年通りの活動とならないように目的や交流活動の経緯等を担当者間で共通理解しなければならない。</p> <p>4 いじめ・不登校に関する情報の共有化</p> <p>○経営会議をはじめ、各会議、各部会で子どもの状況（生徒指導の状況、不登校、家庭環境等）を交流することで、一人一人の不適応の要因になっている悩みや困難の解決、障害の克服に向けて組織的な援助・指導につなげている。</p> <p>●学校における教育相談の対象は、不適応や問題行動等のある子どもではなく、すべての子どもであることを念頭に、学習指導や生徒指導等に教育相談の機能を生かすように努めなければならない。</p> <p>5 家庭、地域への啓発、情報発信</p> <p>○こども園、小学校、中学校がそれぞれに、たよりやホームページで各校園の取組みを発信するとともに、学園ニュース（教職員向け）、保幼小中一貫教育だより（保護者、地域向け）や学園ホームページでタイムリーに情報を発信し、学園の動きを広報した。また、学園のリーフレットを作成し、保護者や弥栄学園運営協議会、その他地域の方々に配布したり、弥栄学園運営協議会で学園の活動を紹介したりして、弥栄学園の活動についての啓発を行った。</p> <p>●行事の参観の中止や延期等により、子どもたちの様子が地域・保護者に伝わりにくくなっていることがアンケート結果から明確となった。</p>	<p>1 経営会議においては、学園の組織が効果的に機能するように連絡調整、伝達、諮詢等を明確にした会議運営を行う。全体研修会の開催は、コロナ禍を想定してオンライン開催も計画しておく。</p> <p>2 これまでの弥栄学園の授業改善や令和3年度の京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会で得られた成果の蓄積をいかして、引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりに弥栄学園全体で取り組む。</p> <p>3 連携活動の取組みにあたっての目的を明確化するとともに関係者で共有し、学園全体での取組みとなるようにする。</p> <p>4 いじめ、不登校等の解消に向けて学園の教育相談機能をさらに充実させる。（教育相談に対する教員一人一人の意識を高めるための研修会の企画等）</p> <p>5 コロナ禍を想定してより積極的な公開や情報発信を工夫する。</p>

令和3年度 久美浜学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【教育目標】	「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」
【目指す子ども像】	(知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 中期的な展望(取組の見通し)

年度	教職員の意識	学力	ギャップ(不登校)
R3 (6年次)	・新学習指導要領への対応 ・学力向上の方策を全職員で検討	学力向上試案の策定(教育課程会議)	接続期の校種間連携充実事例研の継続
R4 (7年次)	学力向上の方策を全職員で検討・実践 新学習指導要領で求められている資質・能力の育成	学力向上方策の実践、改善(全学年)	学校に起因する不登校人数の減少 事例研の継続
R5 (8年次)		↓	早期対応、情報共有の徹底(全職員の共有)
R6 (9年次)		府・全国学力テスト・調査 全学年平均以上(学園)	↓
R7 (10年次)	久美浜学園保幼小中一貫教育の継続した取組の整理とまとめ 次の10年を見通し新たな取組の構築	府・全国学力テスト・調査 全学年平均以上(全学校)	早期対応、情報共有の徹底(全職員の共有)

(2) 重点目標

「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

(3) 指導の重点

『学力向上』①基礎・基本の徹底 ②主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) ③家庭学習時間の確保

(4) 取組の柱

ア 10年間(就学前から中学校卒業まで)の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任をもつという意識の向上
(ア) 久美浜学園全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。(対話と理解)
(イ) 目指す授業として、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識する。その上で、学園テーマとして、「主体的に学ぶ力の伸長」を設定し、すべての教職員で幼児児童生徒が自らの主体的に学ぶ力を伸ばすための教育活動を進める。
イ 各校園所における規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校(園)づくり、授業づくり
(ア) 生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした「わかる授業」により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育てる。
(イ) 各学校の重点研究をもとに、各学年単位をベースに授業研究を進める。特に「主体的に学びに向かう力」を育成する授業づくりの取組を進める。
(ウ) 基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付けきるとともに、当たり前のことが当たり前にできる雰囲気づくりを進める。
ウ 子どもの交流行事並びに教科指導交流の推進による行動連携強化
(ア) 共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける保幼小、小小、小中における交流行事・授業
(イ) 豊かな教科指導を目指す指導交流(保幼小連携、小小連携、小中連携)
エ 保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組を進める。
(ア) P T A、学校運営協議会、地域学校協働本部事業との連携
(イ) 家庭学習時間の確保に向けた連携

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目標、方針等の共有方策	(1) 経営会議を中心に組織的且つ丁寧に、実態や課題、目標、方針等の共通認識を図り、久美浜学園としての共通確認・共有を図る。 ア 年度当初の学園全体会での提起と全体研修会での全教職員による協議を通して、共有を進める。 イ 年3回の公開授業と交流会で、教職員同士の「理解と対話」の充	○久美浜学園7校園が1つの目標に向かう中で、本年度も教職員が交流する機会が少なかつたが、I C T活用や取組の工夫により、教職員及び児童生徒園児の交流を確実に実施し、「理解と対話」の継続を図ることができた。 ○10月のみの授業公開・交流会となつたが、保幼小中の教職員による貴重な対面での協議を行うことで、協働的な指導の充実に向けたよい機会となつた。

	<p>実を図る。</p> <p>(2) 保幼・小・中で共通指導内容を確認し、P D C Aで改善を図りながら共通理解を深める。</p>	<p>○共通指導事項を確認し、指導を継続していく。今後も、具体的な実践共有の場である連携部会の運営のあり方等を改善しつつ、引き続き目標やめあて、指導内容を振り返りながら進めていく。</p>
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	<p>(1) 子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育課程編成</p> <p>ア 考えを深め、コミュニケーション能力を高める学習の推進</p> <p>イ 郷土への愛着と誇りをもち、人とつながる力を育てる学習の推進</p> <p>ウ 保幼小の接続を中心とした教育課程編成</p> <p>(2) 重点指導</p> <p>ア 学力向上</p> <p>(ア) 授業規律の確立</p> <p>(イ) 基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり</p> <p>イ 不登校の解消</p> <p>(ア) 規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立</p> <p>(イ) 学級活動の充実と児童会・生徒会活動等自主活動の活性化</p> <p>(ウ) 自尊感情の高揚</p> <p>(エ) 保幼・小・中の連携強化</p> <p>ウ 今日的課題(情報機器の安全な取り扱い)</p> <p>(ア) 「法やルールに関する教育」の推進</p> <p>(イ) 人権教育の推進</p>	<p>○学園テーマ「主体的に学ぶ力の伸長」を各校で追求し、I C Tを活用した授業づくりを進め、学園公開授業及び各小中学校で研究成果を共有することができた。</p> <p>○ I C Tを活用した授業づくりについて、どの場面で、どのように使うのか、各校で研究を進めた。今後は授業スタイルの中にI C Tを組み入れ、より効果的な活用についての研究を深める。</p> <p>○学園独自で作成したアプローチプログラム、小1スタートカリキュラムの実施状況を検証し、よりよいプログラム等になるように改善した。</p> <p>○拡大教育課程会議の新設や「学力向上プログラム」の検討等、付けたい力の明確化・具体化を検討することができた。次年度は、その検証と実践を進めていく。</p> <p>○久美浜学園「身に付けてほしい言語能力表」や小中共通指導事項を確認・検討して取り組んだ。</p> <p>○ P T A・保護者会を巻き込んだ久美浜学園共通の「家庭学習がんばり週間」の取組を進めることで、学習習慣の定着を進めた。</p> <p>○教育課程会議では家庭学習時間の確保、養護部会ではメディアに係る保健指導系統表の作成、生徒指導部では情報機器に関するアンケートを行い、メディア・コントロールを学園全体で進めた。</p> <p>○教育相談部会では、学園全体概要をまとめ、学園全体で共有できた。また、その傾向から今後の取組を考えるよい機会となった。</p> <p>○学校生活の充実感を味わわせることや基本的生活習慣の確立を各校で図ること、教育相談部における事例研を通して、不登校の未然防止、解消に取り組んだ。</p> <p>○情報機器の望ましい活用(情報モラル)のための特別講演会を小3・4年生、中学1・2年生対象に実施した。</p>
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	<p>(1) 全体会、全体研修会、学校公開授業と分散会、学力・授業づくり部会、生徒指導・不登校防止部会、学年部会を中心とした教職員の交流と協働</p> <p>ア 中学校卒業時の生徒の姿を常に意識した協議</p> <p>イ 児童生徒の実態交流に基づく具体的な取組の推進</p> <p>ウ 「主体的に学ぶ力の伸長」の系統性を意識した指導を目指す授業研究</p> <p>(2) 学校、校種間をまたがった指導の推進</p> <p>ア 小小連携、小中連携、専科教育、出前授業等、人的交流をもとにした協働</p> <p>イ 振り返りスタディ等指導面での協働</p> <p>(3) 幼児児童生徒の行動連携</p> <p>ア 保幼の連携</p> <p>イ 保幼小の連携</p> <p>ウ 小小連携</p> <p>エ 小中連携</p>	<p>○全体会・公開授業・交流会等の教職員の行動連携の取組は限られたが、少人数で集まる部会を中心に実施した。夏季全体研修会では、「開かれた教育課程」に向けて、教職員の地域への具体的な理解を図ることができた。保幼小中の指導の連続性をより確かにするために、実際に子どもの姿を見ることや教職員の交流を次年度以降も継続的に計画していく。</p> <p>○回数は限られたが、各校の授業研究会の案内を発出し、相互参観ができた。また、I C Tの活用について、教育課程会議で各校の取組を集約し、学園だより等によって情報発信することで、各校の実践を広めることができた。</p> <p>○保幼小連携では、幼児児童との交流ができず、体験入学も短時間での実施となった。保幼小の連携の重要性を鑑み、連携のあり方を検討していく必要がある。</p> <p>○小小連携事業では、同学年によるオンラインを活用した交流も実施し、コロナ禍の中での3小学校による連携のあり方を模索することができた。</p> <p>○小中連携では、部活動及び授業体験のみの実施となつたが、児童アンケートから「不安の解消につながる回答が多かった。</p> <p>○児童会・生徒会の合同会議は、オンラインと対面による会議で計2回実施できた。また、合同挨拶運動でも、「おはよう消毒」等、工夫のある取組を行った。</p>

家庭、地域との連携、情報発信	<p>(1) 久美浜学園小中一貫教育に係る目標、活動等の広報及び啓発 ア タよりの発行(学期1～2回程度)、有線放送による取組紹介 イ リーフレットの作成(2月保護者参観等で配布、説明) ウ ホームページによる広報活動(久美浜学園のページ作成)</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立に向けた共通指導の確認と指導の推進</p> <p>(3) 学校運営協議会の取組を通した「久美浜を支える人」の協議</p> <p>(4) 地域学校協働本部事業の積極的な活用等による久美浜町民の学校教育活動への参加と積極的支援</p> <p>(5) 久美浜学園PTA・保護者会との連携による家庭教育支援</p>	<p>○コーディネーターの活動により、様々な取組を様々な機会を通じて広報できた。保護者アンケートでは、学園取組に対する肯定的な意見が増えている。しかし、今年度は事業の中止等があり、分からぬという意見もあった。</p> <p>○コロナ禍により、ボランティアの皆さんの活動や6つの地区区長会等への発信等が実施できなかつたが、次年度も、学園活動への協力や周知を引き続きしていく。</p> <p>○学校運営協議会は3回実施し、学園基本方針を説明した。3つの部会で「久美浜を支える人づくり」について各団体との協議し、学校から児童生徒の課題について提起した。また、夏季全体研修会では、協議会会長の講話等により、教職員の地域への具体的な理解を進めることができた。</p> <p>○久美浜学園独自のPTA・保護者会が一緒に取り組むことで、より多くの家庭との連携が進められた。「あいさつ運動」「家庭学習がんばり週間」等10年間を見通した取組に一步ずつつながつてきている。</p>
----------------	---	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>○これまでの5年間の活動や実践を整理し、本年度（6年次）からは新たな中期展望を設定し取組を進めることができた。年度ごとに丁寧に評価しながら、実践と検証を続けていく。</p> <p>○コロナ禍の中で、ICT活用や取組の工夫により、教職員及び児童生徒園児の交流を実施し、理解と対話の継続を図ることができた。</p> <p>○学力向上に係って、教育課程拡大会議を開催し、中学校における現状や課題から、付けたい力について協議することができた。</p> <p>○テーマ「主体的に学ぶ力の伸長」を目指し、授業公開・交流会を実施し、ICTを活用した授業研究を深めることができた。また、各校研究の共通視点でもあり、教職員の意識も向上できた。</p> <p>○経営会議の方針のもと、企画運営会議が事業を運営し、教育課程会議が学習指導等に関する内容の具現化を図り、相互に共有して進める運営の機能化を図ることができた。</p> <p>○コーディネーターの活躍により、広報・会議のまとめ・事業後の児童生徒・保護者アンケート等、幼小中のつなぎや周知が更に進んだ。</p> <p>○4PTAと3保育所園・こども園の保護者会も一緒に活動でき、学園PTA・保護者会の基盤がより確かなものになった。</p> <p>○学校運営協議会で「久美浜を支える人」について、3つの部会で学校からの課題を提起して話し合った。また、夏季全体研修会では、教職員の地域への具体的な理解が進んだ。</p> <p>○共同事務室の取組として、小学校入学用品や返金規定、備品等の共通化・共用化、各種業務の見直し等を進めることができた。</p> <p>△「主体性」「ICT活用」等を視点とした授業改善について、各校の研究成果や学園授業研究成果をまとめ、分析、検証を行う。</p> <p>△児童教育・保育における取組について学び、児童から小学校への接続やその意義についての研修機会を確保する必要がある。</p> <p>△久美浜学園の児童生徒の課題として、不登校の増加がある。学園全体の概要や傾向は共有することはできたが、具体的な成果につなげることができなかつた。</p> <p>△連携部会の取組は回数が限られている中で、ミッションを成果が見えるところまで高めることは難しかつた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで積み上げてきた保幼小中教員の「対話と理解」をベースに、保幼小中一貫教育推進計画の共通理解を図る。また、学校園所公開や交流会を引き続き進める中で、保幼小中に係る共通視点を明確にした指導方法等の継続性について、研修及び協議を行っていく。 ・学力向上について、拡大教育課程会議において、生徒実態や課題を共有するとともに、解消のための具体的な方策を検討する。また、「学力向上プログラム」へ落とし込み、検証と実践を積み重ねていく。 ・研究テーマや学力向上、系統的な指導等の具現化を目指し、部会内容や体制の工夫、ミッションの具体化・焦点化、実践の検証の見える化等、連携部会の運営を工夫する。 ・「主体性」「ICT活用」等を視点とした授業改善について、各校の研究成果や学園授業研究成果をまとめ、分析、検証を行う。 ・授業研究に踏み込むため、各校重点研究における研究授業に参加しやすくするために、教育課程会議が主となって日程調整を行う。 ・児童生徒の生徒指導上の課題や不登校の状況から、学園全体での醸成すべき視点（非認知的能力等）を見出す必要がある。また、肯定的評価を基盤として、学園の教職員の指導観をすり合わせ共通化していく。 ・教育相談部では、傾向把握や未然防止、初期対応について、スクールカウンセラー等の講師を招聘する等、より実践的な研修を行い、各校内へも広めていく。 ・校種間での情報連携や家庭支援連携を進め、不登校の未然防止や早期対応に努める。 ・園所の「目指す10の姿及びそれに向けた取組や保育」を理解するとともに、保幼小の連携の深化を進める。 ・指導方法の具体的な継続性を図るために、保幼小のアプローチ・プログラムやスタート・カリキュラムのほか、小中間の教育課程上の様々なギャップの解消を取り組むため授業スタイルの確立も進める。 ・行動連携事業は、オンラインを活用した実施方法を引き続き検討する。 ・運営面では、これまで進めてきた部会・会議や事業が制限される状況で、改めて事業等の意義について再確認でき、改善・精選を行っていく。